

今後も被災地支援

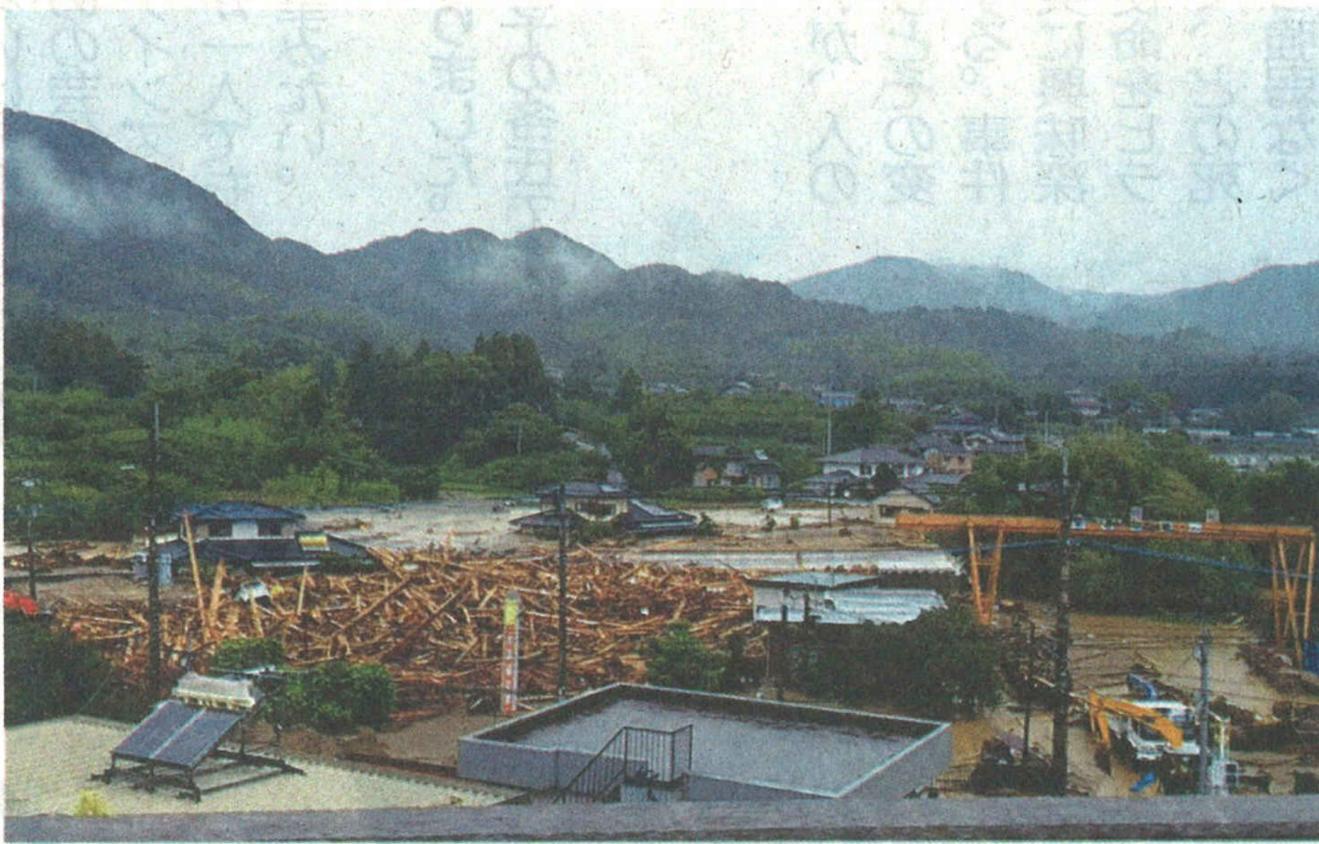
総社市など活動を報告

九州北部豪雨の被災地
「AMDA」(本部・北区)、市環境観光大使で登山家の野口健氏

による合同チームの活動報告会が10日、市役所であった。

合同チームの先発隊4人は6日夜、被害の大きい福岡県朝倉市に到着。市役所や、特に被害が甚大な杷木地区の支所を訪ね、支援ニーズを探った。しかし、大雨が続く中で市役所サイドも全体状況の把握が難しく、チーム自らが避難所を回って情報収集に努めた。

豪雨被害で流木が積み重なった被災地
—福岡県朝倉市内で (総社市提供)



途中から合流した野口さんとともに避難所を訪問したところ、とりあえず必要とされたのが暑さと蚊の対策だった。このため虫よけ

スプレーや電池式蚊取り、冷感タオルなどを現地調達。2次派遣隊4人も、総社市から段ボールベッドや業務用扇風機などをトラック

とワゴン車で持ち込んだ。

合同チームによると、朝倉市は市域が広く、市役所などの中心部は被害が見られなかったが、杷木地区方面に向かうと大量に積み重なった流木などが見られ、道が流出して入

れない場所もあった。そうした中でも、市内の医療機関は機能していたという。

合同チームは8日に現地を離れたが、担当者「今後も状況に応じた支援を考えたい」と話している。

【小林一彦】